

同窓会長 ご挨拶

上尾裕昭 (20期)

大分上野丘高校の同窓生の皆様におかれましては ますますご健勝の段 お慶び申し上げます。

2017年4月の新執行部の発足とともに同窓会長を務めさせていただいている20期・上尾です。伝統を誇る同窓会の更なる発展と、同窓生の交流の活性化を目指して誠心誠意務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

私と同窓会との関わりを振り返ってみますと、2008年夏 岩崎哲朗・前々会長(20期)が統括した大同窓会「上高祭～みはるかすくに～」に医務室担当として参加したのが最初の接点でした。久しぶりに聞いた校歌のドームでの大合唱、私は医務室で高校生時代を思い出しながら懐かしい思いに浸っていました。

2009年 春の甲子園。私は高校からの要請を受けて応援バス随行医師として甲子園へ。貸し切りバス27台の列の最後尾のバスに乗り込んで19時に校門を出発して早朝に到着しましたが、幸い私の出番となる急病は発生せず、皆さんと一緒にアルプススタンドへ。7回の表、全国から集った同窓生と在校生が総立ちで歌った校歌に鳥肌が立つような感動を覚えました。その後、「あの感動を残すために甲子園記念文集を作ろう。」という声と同窓生有志から上がり、当時の岩崎同窓会長のご高配で同窓会誌の増刊号という形で発刊できることになりました。

2010年 「各期が1ページを自由に編集。在京同窓会・関西同窓会も参画」というコンセプトで、私は編集長として各期の皆さんとのメール交信を重ねながら甲子園記念文集が完成。この文集は経費の面では自費出版という形でしたが、3,500部が完売して黒字分は編集委員会からの記念植樹をさせていただきました。高校のグラウンドとテニスコートの境界の土手に、「野球部員が卒業の頃に咲く花」としてミモザが毎年、黄色い花を咲かせています。

2011年「同窓生なら誰でも参加できる同窓会を大分で毎年、開催しよう」という気運が高まり、岩崎会長(20期)のもとで私は広報委員長として同級生の中村吉則君達と企画案を練りました。初回の幹事学年は卒業期の下1桁が0と5の学年として私達20期が責任学年を務め、5年毎に全学年に当番が廻るシステムが生まれました。

2012年 前年の東北大震災のために延期となっていた全体同窓親睦会が誕生。翌年の第2回は橋本仁副会長（30期）、第3回は管亮善副会長（22期）が実行委員長を務めて、まさに三段跳びの勢いで順調に成長し、毎年8月の第2（または第1）土曜日には300名～400名の同窓生が集まって和やかな時間を過ごしています。この会のフィナーレで「全員で肩を組んで校歌を歌う」という念願が実現しました。

特筆すべきことは、第1回の全体同窓親睦会の直後に若手有志の自発的な企画でU-39会が発足したことです。毎年U-39会は文字どおり39才以下の同窓生が100名以上集って、華やかで若々しい雰囲気に溢れています。U-39の初代実行委員長の古城秀明氏（51期）に、若手代表の副会長として新執行部に加入してもらいました。

2013年 高山龍五郎先輩（14期）が同窓会長に就任され、私は広報担当・副会長を拝命しました。この頃に「年会費（1,000円）を納付して下さった方には、同窓会誌を発送して交流と広報の輪を広げよう」という広報部の企画がスタート。今年度も2,500名の方々に送付しましたが、同窓会誌の印刷と発送費に1,000円のうち870円を要しますので、「年会費で同窓会活動を展開」という目標には“まだまだ道半ば”の段階です。

2014年秋 翌年の130周年事業に向けて、高山会長が情熱を注いでおられた母校のアーカイブスのパネルをホルトホールで一般公開する企画が生まれ、広報部員が各時代の母校の歴史や当時の新聞記事を編集しました。同時に、中村吉則アーカイブス委員長（20期）を中心に、高校の資料室に眠っていた資料を整理しながらデータ化する作業を行い、今ではかなりの資料をパソコンで検索することができます。

2015年8月 古手川哲副会長（32期）の陣頭指揮のもと約50名の有志がホルトホールのロビーに集結。パネルを組み立てて「写真と新聞記事でたどる大分と母校のあゆみ」の約100枚ポスターを貼付。1週間の展示期間中には多くの同窓生と市民の方々に楽しんでいただきました。

また、大ホールでは橋本仁副会長（30期）の総合司会、加藤一郎副会長（46期）と仲町優氏（37期）の座長で市民公開講座を開催。中野通孝副会長（34期）は高校のPTA会長として広報に尽力。姫野由香副会長（46期）と坂下千端子医師（37期）の講演に約600名の市民と同窓生が来場。その日の夕方の全体同窓親睦会2015には史上最高の458名の同窓生が集まり、秋月真一郎実行委員長（23期）をはじめとした幹事グループのおもてなしを受けました。

2016年春 40年前に同窓会が寄贈した高校の記念館の外壁が崩れ落ちて生徒に危険を及ぼしている問題が浮上。その修復の責任は同窓会が担っているため、2017年度には寄付金募集という難事業に立ち向かいことになり、次の執行部を早めに決めて2017年4月～8月にブランクのない形で執行部活動を継続することになりました。

2016年8月 定例理事総会で新執行部が選任され、その直後の全体同窓親睦会2016でメンバー紹介をさせていただきました。徳重英仁実行委員長（24期）を中心に幹事グループが周到に準備してくれたアトラクションに魅入られながらも、「2017年度の寄付事業」と「2018年8月11日の記念イベント（グランシアタ）」という言葉が私の頭の中を占めていました。

以上、最近の同窓会の動きを紹介させていただきましたが、これからも同じようなコンセプトで取り組みたいと思っています。

3Kという言葉で表現しますと、「交流」「広報」「経済力」となります。

「交流」は全体同窓親睦会の継続・発展と在京同窓会・関西同窓会・福岡大中上野丘同窓会との連携です。

「広報」はメールアドレス登録推進とメールでの情報発信、同窓会誌編集委員会への協力、同窓会ホームページの充実です。

「経済力」は“年会費納付者5,000名の目標達成”と“全員発送（経費が400万円以上）の省略化”を図って、“経済面で困らない同窓会”への道筋を立てたいと思っています。勿論、この中には新年度の寄付募集も含まれています。

最近、「みはるかすくに基金」という口座を新設し、“いつでも、誰もが、同窓会のために寄金出来る体制”が整いました。近々、お届けする高校70周年事業の趣意書の中にも記載させていただいております。

ご意見・ご要望がございましたら、お気軽に同窓会事務局(info@uenogaoka.jp)へメールをお送りください。執行部一同、拝読・検討させていただきます。今後ともご相談やお願いをさせていただくことがあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。